

2 記録を読み取る

「科学する心」の育ちを探る①～保育課程の領域から～ 社会福祉法人晴朗会 すくすく保育園

「科学する心が育まれる場面を捉えて考察すること」をテーマにコメント用紙を持ち、保育者が子どもの行動や表情・言葉から「なぜ?」「どうして?」と記録し、考察した。また、「あれ?」「この子は何か思っている?」と感じた場面はできるだけ多く撮影し、できた写真やメモから、子どもの表情や何気ないしぐさ・行動など、今までは見過ごしていた子どもの姿から、子どもの思いを深く捉えるようにした。また、各組からたくさん集まったコメント用紙をまとめ、本園の保育課程との関連の中から、「科学する心を育てる～豊かな感性と創造性の芽生えを育む～」という主題に迫る手立てや援助の在り方を探った。

保育課程 (IVおおむね3歳) 目 標 気の合う友達の中で、自分の思いを出しながら楽しく過ごす。

健康(3-1)

ア基本的身体機能の発達により、**手先や身体が自分なりに使えた充実感を味わう。**
イ外遊びなどで**身体を十分に使い熱中できる喜びを楽しむ。**
ウ食事・排泄・睡眠・衣服の着脱など生活に必要な基本的な生活習慣に興味・関心をもつ。

人間関係(3-2)

ア保育者に様々な欲求を受け止めてもらい、**保育者に親しみもち安心感を持って生活する。**
イ年上の友達に遊んでもらったり、**模倣して遊んだりし、友達とごっこ遊びを楽しむ。**
ウ簡単なきまりを守ったり、保育者の手伝いを喜んだりする。

環境(3-3)

ア**身近な動植物をはじめ自然事象をよく見たり、触れたりなどして驚き、親しみをもつ。**
イ**身近な人々の生活を取り入れたごっこ遊びを楽しむ。**
ウ自分のものと他人のものとの区別を知り、共同のものとの区別にも気づく。

言葉(3-4)

ア生活に必要な言葉がある程度わかり、したいこと、してほしいことを言葉で表す。
イ友達の話を聞いたり、保育者に質問したりするなど**興味をもった言葉や、言葉によるイメージを楽しむ。**
ウ保育者との質問ややりとりを通じて、**言葉による表現を楽しむ。**

表現(3-5)

ア身の回りの様々な**ものの音、色、形、手ざわり、動きなどに気づく。**
イ音楽に親しみ、聞いたり、歌ったり体を動かしたり、簡単なリズム楽器を鳴らしたりして楽しむ。
ウ保育者と一緒に絵本を読んだり絵を描いたり、音楽に親しみ、歌ったり、簡単なリズム楽器を使って遊ぶことを楽しむ。

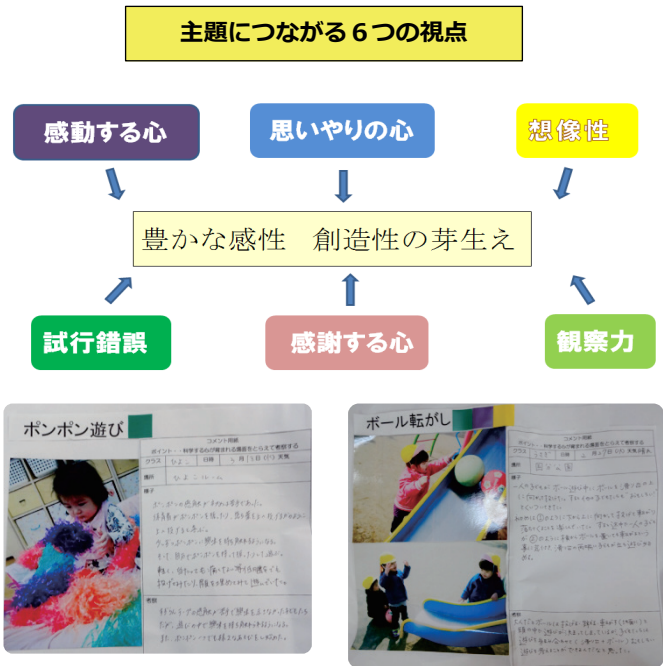
(3歳児の4月～7月の記録※抜粋)

領域との関連	日	場 所	科学する心が育まれる場面	考 察
3-3-ア 身近な動植物をはじめ自然事象をよく見たり、触れたりなどして驚き、親しみをもつ。	4月	公園	4月の公園には、タンポポがたくさん咲き、次々に綿毛になる。「きれいな丸形！」と喜び綿毛を吹いていて飛ぶ様子を楽しんでいる。	・近隣の公園で、タンポポがたくさん咲くところがあり、子どもたちもよく知っている。きれいな形の綿毛を集めたり、吹いて飛ばしたりすることを繰り返して楽しむ。時期を逃さず遊びに取り入れることが大事だと思う。
3-4-イ 友達の話や仲立ちとして、生活や遊びの中で簡単な言葉でのやり取りを楽しむ。	4月	公園	2歳の頃から、公園の岩の上は、お気に入りの遊び場。身近にある草や木の枝を使って料理作りを楽しんでいる。何がなくとも、公園にあるものを探して遊ぶが、砂遊び用のスコップを持ってきたことから、みんなで一緒にやきそば作りが始まった。「肉を入れよう!」「ソースをかけよう!」と会話が弾む。	・いつもお気に入りの場所では、安心してゆったり友達との遊びを楽しんでいるが、時には、少し違った用具を用意してみると、それが刺激となって、遊びにイメージが広がり、さらに楽しめることが分かった。
3-5-ア 身の周りの様々なものの音や手触りなどの不思議さに気付く。	5月	園庭	園庭の滑り台で遊んでいるとき、A児がいろいろな場所を叩いて、音が違うことに気付く。音遊びを始めた。そのうち、机になったところの音が気に入ったようで、I児と一緒に、とんとんとんとリズムをとって楽しんでいた。	・いろいろなところを叩いているうちに、音の違いを発見した。板や鉄、その他、空間の大小により音の違いがあるのだが、「あれ?」「あれ?」と思いながら試していることがよく分かった。 ・K児にもその楽しさが伝わり、一緒にリズム遊びのように叩く遊びに発展した。

<p>3-3-ア 身近な動植物をはじめ自然事象をよく見たり、触れたりなどして驚き、親しみをもつ。</p>	<p>6月</p> 	<p>園庭</p>	<p>今年は、3歳児クラスでは、スイカを植えることにした。花が咲き、だんだん実が大きくなってくと、登園時に親子で観察しては、担任に報告する子どもが多くなった。保護者の方も「スイカはこうしてできるのですか？」と話題が沸騰した。期待のスイカは、開けてびっくり黄色スイカだった。みんなで味見。また、家での話題が増えた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スイカがどのようになるかを知っている大人子どもも少ないので、実が大きくなってくとみんなの関心の的となった。プランターでも栽培できることを知り、多様な経験のひとつとしてよい取り組みになった。 ・「黄色だから、メロンではないの？」と不思議に思っていた。
<p>3-3-ア 身近な動植物をはじめ自然事象をよく見たり、触れたりなどして驚き、親しみをもつ。</p>	<p>7月</p> 	<p>園庭</p> 	<p>園庭に出ると、ダンゴムシ探しが始まる。いつもカップを持って集めているM児。保育者に1匹ダンゴムシを渡すと、急にお腹からダンゴムシの赤ちゃんが次々と出てきた。ゴマ粒よりも小さい赤ちゃん。別の容器に入れ、虫メガネでみんなで観察した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・3歳児にとって、ダンゴムシは園庭でも身近に見つけることができ、心を寄せられる生き物である。 ・こんな小さなダンゴムシにも赤ちゃんが生まれることを知り、驚きと感動の気持ちを味わい、さらに、関心をもって親しむようになってきた。

「科学する心」の育ちを探る②～6つの視点から～

コメント用紙記録を、園が捉えた「科学する心」の6つの視点から分析・考察する。



＜方法＞集まったコメント用紙記録は、みんなで回覧するとともに、日々のリーダー会議（昼寝時）で話し合い、定例の職員会議にて全員で検討した。保育課程の領域という窓口とともに園独自の、6つの視点からも考察することで、事例を深く広く読み取るようにした。また、園全体で、共有が図れるように会議の室に常にコメント用紙と画像を掲示し、保育の中で意識できるようにした。この部屋には、保護者も入ることができ、主題に繋がる姿について共有を図ることができる。

6つの視点の周囲に分析・考察したコメント用紙記録を展示



会議室に常時展示みんなで共有

＜考察＞コメント用紙の記録を園の保育課程のそれぞれの年齢の領域のねらいに照らし合わせることや、主題に繋がる6つの視点から読み取ることで、本園の各年齢の子ども姿や成長発達がよく捉えられた。「科学する心が育まれる場面を捉えて考察する」ことのエピソードを基に探っていったので、「豊かな感性と創造性の芽生えを育む」ために必要な指導が少しずつ明らかになってきた。

集まったエピソード記録を園独自の方法（保育課程に照らし合わせる）で分析・考察することで「科学する心」の育ちの年齢別特徴把握に繋がります。また、同じエピソード記録を別の方法（園が考える6つの視点）で分析・考察することで、より丁寧に多面的に「科学する心」の育ちが捉えられることが期待できます。